

「側高神社」 そばたか

独自の構造を 持つ本殿



▲側高神社本殿

側高神社は、大倉の利根川を見下ろす台地に鎮座しています。香取神宮第一の摂社で、地元では「側高様」と呼ばれ親しまれています。

摂社とは、本社の祭神と縁の深い神を祀った社のことです。しかし、側高神社の祭神は、古来より神秘として明かされていません。ちなみに、本社である香取神宮の祭神は経津主命です。

社伝には「神武天皇十八年」の創建とありますが、これは香取神宮に伝わる神宮創始の年と同じで、両社の関係の深さを示す一例でしょう。実際の創建年代は不明です。

本殿は、寛文5年（1666）の建立で、一間社流造です。一間社とは、身舎（本殿や拝殿などの建物本体）が一間四方であることを指します。流造とは、切妻造の平入り（棟と並行する面）を正面にして、屋根は緩やかに反っています。この反りが流れるようにみえることから、流造の名称がつけられたといわれています。

現在の屋根は銅板葺きですが、もともとは薄い木片を重ねて敷き詰めた柿葺きでした。屋根の形状は身舎の前方に長く伸び、拝礼の場所である向拝も覆っています。向拝には柵状に床板が貼られており、その様子が店舗の見世柵に似ていることから見世柵造といえます。つまり、身舎は一間社流造で、向拝に床板を貼った見世柵の本殿ということになります。

側高神社の場合は、さらに向拝床板の前に木階を設け、その下に浜縁と呼ばれる縁を取り付けています。この独自の構造を持つ本殿は、当地域ではほかに類例がなく、昭和57年4月6日に県有形文化財に指定されました。

毎年1月には、奇祭として知られる「ひげなで祭（市指定無形民俗文化財・昭和52年6月1日指定）」が執り行われます。時期を合わせて足を運んでみてはいかがでしょう。

問い合わせ

生涯学習課

☎(50)1224